

シリーズ

「私の森語り」
もりやた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「野生鳥獣の命を通し、自然環境との
共存共栄を目指す」



株式会社
信州富士見高原ファーム
とくち ゆうき
戸井口 裕貴

■自己紹介

狩猟免許・銃砲を所持して、ちよ
うど二十年経ちました。学生時代は
地元を離れていましたが、地元に戻
ると同時に狩猟免許・銃砲の所持許
可を取得しました。きっかけは、父
が狩猟をしていたからです。物心つ
いた頃には、当たり前のように冬に
なると父が犬とともに鉄砲を持って
出かけていき、小学生になり始めて
「あれ、もしかして鉄砲あるのは我が
家だけ？」と気が付いたくらいに身近
な環境でした。その頃は、めったに
シカ・イノシシなどは獲れることも
なく、キジ・カモといった鳥が主な
狩猟対象でした。

でも、私が免許を取得した頃には、
山に行くとシカを見ることができ、

十年足らずで普通に見かけることの
できる野生鳥獣となり、その後、通
年での有害鳥獣捕獲対象になりました
た。捕獲しては埋設、一部自家消費
する程度であり、趣味であつたはず
の狩猟が命を奪うだけの行為になっ
ていく。さらに、しっかりと埋設した
はずが、他の野生鳥獣に掘り起こさ
れ、山の生態系が崩れるような様を
目の当たりにして、何とかならないか
と悩んでいたところ、このシカを重
要な地域資源としてとらえ、「ジビ
エ」として商品化できないかと思い、
会社を設立しました。

■活動内容

当社の主たる事業は、地元猟友会
が捕獲された有害鳥獣を精肉販売す
ることです。野生鳥獣であるがゆえ



相棒と狩猟へ

に、食品として安全・安心であるこ
とを知ってもらえるよう「国産ジビ
エ認証」「信州ジビエ認証」を取得し、
ホテルやレストラン、小売店などに
扱っていただいております。



野生鳥獣は畜産動物とは違い、日々
の捕獲頭数が不確定であり、大手外
食チェーンからジビエを使いたいと
のご相談をいただいても、安定供給
・安定生産できないという課題があ
りましたが、国産ジビエ認証ができ
たことによって、同じ思いの全国各
地の認証施設より肉を集荷し、大ロッ
トとして出荷できるようになり、新
たに認証取得を目指す施設向けの講
習会も実施しています。

また、都内の調理専門学校の課外
授業では、先ほども山で生きてい
たシカが精肉になる過程を見てもら
い、命を通じて一頭から得られる各
部位や聞きなれない希少な部位にも
目が向いたように思えます。

最近では、ジビエを食べていただ
く、使用していただく機会を増やす
べく、低温調理済みブロック肉など
の商品開発もしています。狩猟者の

高齢化もありますが、当施設がある
ことによって、捕獲時の心の負担が
減ったこともあり、農業従事者の猟
友会への加入につながっています。

■メッセージ

肉や革・ペットフード等への利用
によって、当施設からの残渣は創業
当時に比べるとかなり少なくなしま
したが、まだ若干活用できずに焼却
処分をしている部分もありますので、
まずは残渣ゼロを目指します。

春夏秋冬、山々の旬の植物を食べ
ている野生鳥獣、味の変わる「四季を
感じる肉」ジビエ」まずは食べてみて
ください。

○連絡先

〒399-0211

長野県諏訪郡富士見町富士見

六六六一一五八八

電話0266-65-3213

<https://www.fujinikogen-farm-nagano.jp/>

